

平成27年10月9日

保護者の皆様

川崎市立高津中学校

校長 河野 勝彦

平成27年度全国学力・学習状況調査結果の概要等について

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと拝察いたします。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、4月21日（火）に3年生を対象に実施した標記調査の本校の調査結果の概要と、今年度に向けた取組目標の達成状況、次年度に向けた取組目標等について報告いたします。今回の調査結果等を踏まえ、今後も生徒の皆さん一人一人の学習状況の改善、主体的な学習態度や豊かな心の育成等に努めてまいります。

なお、調査の実施要領には「本調査によって測定できるのは学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面である」と示されていることから、本資料は「本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標」としてお考えいただきたいと存じます。

調査結果の概要

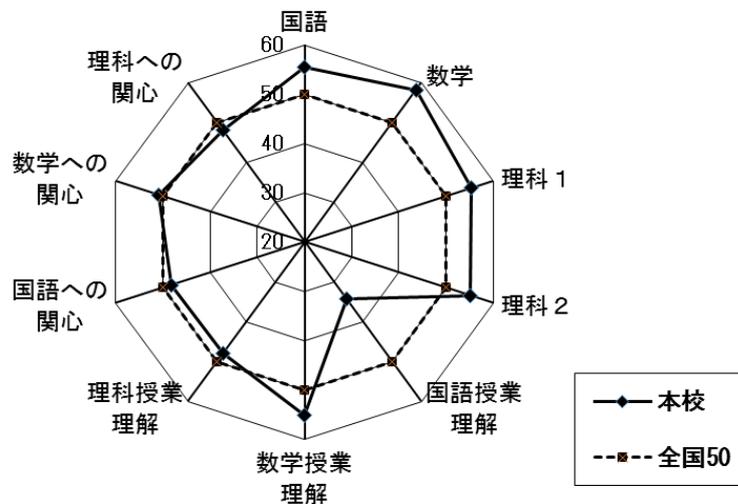
* 全国結果を50とし、それに対する本校の結果を表しています。

1 教科の調査

①国語の「話すこと、聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4領域、数学の「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域の平均正答率が、全国に比べてすべて上回っていることから、今年度も本校の結果は、全体的に良好な状況にあります。

②理科の第1分野の「物理」「化学」、第2分野の「生物」「地学」の4領域の平均正答率が、全国に比べてすべての上回っていることから、理科についても本校の結果は、全体的に良好な状況にあります。

③その一方で、全国に比べて上回ってはいるものの、どの教科でも「知識」に関する問題に比べて「活用」に関する問題の正答率が低く、無解答率が高い状況にあることから、今年度も「基礎的・基本的な知識及び技能を活用する力」に課題があります。



2 教科に関する意識調査

①国語については、全国に比べて授業の理解度がかなり低く、関心等もやや低いという課題があります。

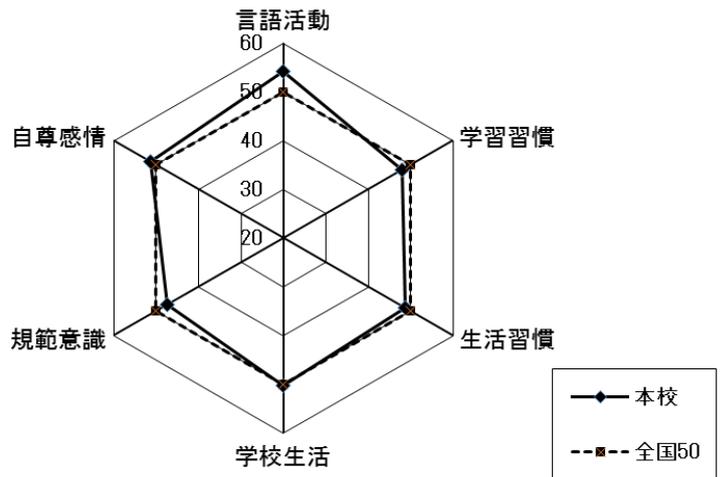
②数学については、全国に比べて授業の理解度が高く、関心等もやや高い状況にあります。

③理科については、授業の理解度と関心等がいずれも全国に比べてやや低いという課題があります。

3 学習・生活習慣や意識等に関する調査

- ①家庭学習については、「宿題や復習への取組」に課題があります。
- ②「朝食を毎日食べる」や「同じ時刻に寝る」については、全国とほぼ同じ状況にありますが、「同じ時刻に起きる」については課題があります。
- ③「学校に行くのが楽しい」と思っている生徒の割合は、全国とほぼ同程度で良好な状況にあります。
- ④規範意識や自尊感情については、全国とほぼ同程度で概ね良好な状況にあります。しかし、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」については、肯定的な回答の割合が7割程度にとどまっているという課題があります。

* 全国結果を 50 とし、それに対する本校の結果を表しています。



調査結果の内容

国語

- ◇良好な状況と考えられるもの
- ◆課題があると考えられるもの
- 国語、数学のA問題：主として「知識」に関する問題
- 国語、数学のB問題：主として「活用」に関する問題

1 今年度に向けた取組目標の達成状況

- 「4領域の平均正答率が全国に比べてすべて上回る状況」と「国語の授業の理解度や関心等が高い状況」をめざします。
 - ▶27年度も4領域の平均正答率が全国に比べてすべて上回りました。その一方で、授業の理解度と関心等については、肯定的な回答の割合が全国平均を下回り、目標を達成することができませんでした。
- B問題の記述式問題の平均正答率が50% (26年度は44.5%)を上回ることをめざします。
 - ▶27年度の記述式問題3問の平均正答率は、26年度に比べて5ポイント上回ったものの、49.5%にとどまり、目標を達成することができませんでした。

2 領域ごとの概要

【話すこと、聞くこと】

◇A問題とB問題の合計7問の平均正答率が82.2%と高い状況にあることから、「話すこと、聞くこと」の領域の基礎的な知識と基礎的な知識を活用する力は、いずれも概ね身に付いていると考えています。

【書くこと】

◇A問題の5問の平均正答率が82.1%と高い状況にあることから、「書くこと」の領域の基礎的な知識は、概ね身に付いていると考えています。

◆B問題の問2「資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く」の正答率が27.5%と低く、課題があります。多様な情報に触れながら、自分の考えをもつ活動等を取り入れながら改善を図ります。

【読むこと】

◇A問題の5問の平均正答率が90.8%と高い状況にあることから、「読むこと」の領域の基礎的な知識は、概ね身に付いていると考えています。

◆B問題の間3三「文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を上げて自分の考えを書く」の正答率が51.4%と低く、課題があります。文章の展開について、根拠を明確にして自分の考えをもつ活動等を取り入れながら改善を図ります。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

◇A問題の間9二「文脈に即して漢字を正しく読む」の3問の平均正答率が92.0%であること、間9五「運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選択する」の正答率が88.0%であることなどは、良好な状況と考えています。

◆A問題の間9一「文脈に即して漢字を正しく書く」のうち、「縮尺(シュクシヤク)」「余(アマ)った」の無解答率がそれぞれ11.3%、12.0%と比較的高く、課題があります。漢字の字形や画数、読みや意味などの基本的な事項を確実に指導しながら改善を図ります。

◆A問題の間9四②『青さ』の品詞として適切なものを選択するの正答率が30.3%と低く、課題があります。具体的な文章を通して単語を類別する活動等を取り入れながら改善を図ります。

3 国語に関する意識 () は全国の回答率

◆「どちらかといえば、当てはまる」までを含めると、「国語の授業がよく分かる」と回答した割合は58.6%(74.3%)と、全国に比べてかなり低い状況にあります。

◆「どちらかといえば、当てはまる」までを含めると、国語の「勉強が大切」については92.2%(89.9%)と全国に比べてやや高い状況にあります。また、「勉強が好き」は57.8%(60.6%)、「学習したことが将来役に立つ」は83.1%(84.2%)と、いずれも全国に比べてやや低い状況にあります。

4 次年度に向けた取組目標

次年度も「4領域の平均正答率が全国に比べてすべて上回る状況」をめざします。特に、B問題の記述式問題については、昨年度に引き続き条件作文を書く指導等を授業に取り入れながら、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書く力の育成を図り、平均正答率が50%を上回ることをめざします。また、生徒にとって分かりやすい授業となるよう、指導方法や内容の工夫・改善に努め、国語に関する理解度と関心等の数値の向上に努めます。

数 学

1 今年度に向けた取組目標の達成状況

○「4領域の平均正答率が全国に比べてすべて上回る状況」をめざします。

▶27年度も4領域の平均正答率が全国に比べてすべて上回りました。

○図形の証明や証明された事柄を用いる問題については、正答率と無解答率のいずれも5ポイント程度の改善をめざします。

▶27年度の図形の証明問題の正答率は69.0%(26年度は40.6%)、無解答率は7.7%(26年度は17.2%)と、いずれも5ポイント以上改善することができました。

○数学に関する関心等の数値の向上に努めます。

▶27年度の数学に関する関心等についての9問の肯定的な回答の割合の平均が71.2%と、全国の70.2%をやや上回るすることができました。

2 領域ごとの概要

【数と式】

- ◇A問題の問2(1)「一次方程式の計算」、B問題の問2(1)「連続する3つの整数の和が、中央の数値の3倍になるかを確かめる式を書く」、(3)「連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する」については、正答率がそれぞれ87.3%、88.0%、87.3%と高く、良好な状況にあると考えています。
- ◆A問題の問2(2)「赤いテープの長さが a cmで、白いテープの長さが $3/5$ 倍のとき、白いテープの長さを、 a を用いた式で表す」の正答率が34.5%と低く、課題があります。事例や数量の関係をとらえ、その関係を文字式に表す活動等を取り入れながら改善を図ります。

【図形】

- ◇A問題の問5(3)「与えられた投影図から立体を読み取り、その立体を選ぶ」、問6(1)「同位角にある角について正しい記述を選ぶ」については、正答率がそれぞれ86.6%、88.0%と高く、良好な状況にあると考えています。
- ◆A問題の問8「対頂角は等しいことの証明について、正しい記述を選ぶ」の正答率が28.2%と低く、課題があります。証明の必要性和意味について帰納と演繹の違いに着目してとらえる活動等を取り入れながら改善を図ります。
- ◆B問題の問3(1)「四角形がいつでも平行四辺形になるように点の位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する」の正答率が33.1%と低く、無解答率が28.2%と高いことから、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することに課題があります。

【関数】

- ◇A問題の問12(2)「時間と道のりの関係を表すグラフを基に、出発してから15分後にいる地点までの道のりを求める」の正答率が95.8%と高く、良好な状況にあると考えています。
- ◆B問題の問1(3)「映像の明るさを2倍にするための投影画像の面積の変え方を選び、その理由を説明する」の正答率が22.5%と低く、課題があります。数学的な解釈に基づいて、事柄が成り立つ理由を説明する活動等を取り入れながら改善を図ります。

【資料の活用】

- ◇A問題の問14(2)「度数分布表について、ある階級の度数を求める」、問15(1)「セットメニューの選び方の総数を求める」については、正答率がそれぞれ86.6%、91.5%と高く、良好な状況にあると考えています。
- ◆B問題の問5(2)「2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言い切れない理由を、グラフを基に説明する」の正答率が26.1%と低く、無解答率が17.6%と高いことから、課題があります。資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動等を取り入れながら改善を図ります。

3 数学に関する意識 ()は全国の回答率

- ◇「どちらかといえば、当てはまる」までを含めると、「数学の授業がよく分かる」と回答した割合は76.7%(71.6%)と、全国に比べて良好な状況にあります。
- ◇「どちらかといえば、当てはまる」までを含めると、数学の「勉強が好き」が59.9%(56.0%)、「勉強は大切」が83.8%(82.6%)、「学習したことが将来役に立つ」が76.7%(72.5%)と、いずれも全国に比べてやや高い状況にあります。

4 次年度に向けた取組目標

次年度も「4領域の平均正答率が全国に比べてすべて上回る状況」と「数学の授業の理解度や関心等が高い状況」をめざし、指導方法の更なる工夫・改善に努めます。特に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明する問題については、問題解決の方法や手順を数学的な表現を用いて説明する指導を取り入れながら改善を図り、正答率と無解答率のいずれも今年度より5ポイント程度向上することをめざします。

理 科

1 領域ごとの概要

【物理】

- ◆問6(2)「音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を選ぶ」の正答率が38.7%と低く、課題があります。仮説を設定し、検証する実験等を計画的に取り入れながら改善を図ります。

【化学】

- ◇問1(1)「塩化ナトリウムの化学式を選ぶ」の正答率が87.3%と高く、良好な状況にあると考えています。
- ◆問1(2)「溶解度の表から、炭酸水素ナトリウムを入れた試験管を選ぶ」の正答率が26.8%と低く、課題があります。観察・実験の結果を分析して解釈する活動等を取り入れながら改善を図ります。

【生物】

- ◇問7(2)「キウイフルーツがゼラチンや寒天を分解する働きを説明した記述として適切なものを選ぶ」の正答率が84.5%と高く、良好な状況にあると考えています。

【地学】

- ◆問2(3)「雲の成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを選んで改善する」の正答率が21.8%と低く、課題があります。多面的、総合的に思考しながら、考察などを検討して改善する活動等を取り入れながら改善を図ります。

2 理科に関する意識 () は全国の回答率

- ◆「どちらかといえば、当てはまる」までを含めると、「理科の授業がよく分かる」と回答した割合が64.8%(66.8%)と、全国に比べてやや低い状況にあります。
- ◆「どちらかといえば、当てはまる」までを含めると、理科の「勉強が好き」は65.5%(61.9%)と全国に比べてやや高い状況にあるものの、「勉強が大切」は67.6%(69.3%)、「学習したことが将来役に立つ」は50.3%(54.3%)と、いずれも全国に比べてやや低い状況にあります。

学習・生活習慣や意識に関する調査

1 今年度に向けた取組目標の達成状況 () は全国の回答率

- 「いじめは絶対に許されないと考える生徒」「自分のよさを認識できる生徒」「将来の夢や目標をもつ生徒」の割合が、全国と同程度になることをめざします。
- ▶27年度は「いじめはどんなことがあってもしてはいけない」「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合が、それぞれ93.0%(93.7%)、69.7%(68.1%)、71.8%(71.7%)と、全国とほぼ同程度になりました。

2 領域ごとの概要

* 数値には「どちらからといえば」と回答した割合を含みます。

【言語活動】

* () は全国の回答率

◇「友だちと話し合うとき、話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した割合は94.3%(93.0%)と高く、今年度も良好な状況にあると考えています。

◆「自分の考えを発表することができる」「自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることができる」と回答した割合は、それぞれ47.9%(49.6%)、41.6%(35.6%)と低く、今年度も自分の考えや意見を相手に伝えることに課題があります。今後も、「話し合い活動」や「自分の考えを文章にまとめる活動」等の充実を図りながら改善に努めます。

【学習習慣】

◆全国に比べて学校以外での学習時間は多いものの、同時に通塾率も高い傾向があります。そのため、家で「宿題をしている」「復習をしている」と回答した割合は、それぞれ86.6%(89.3%)、45.1%(52.0%)と全国に比べて低く、今年度も学校の授業に関連した家庭学習の時間が少ないという課題があります。

【生活習慣】

◆「朝食を毎日食べる」「毎日同じ時刻に寝る」と回答した割合は、それぞれ94.8%(93.5%)、76.8%(75.2%)と、全国とほぼ同程度の状況にあります。その一方で、「毎日同じ時刻に起きる」については85.2%(92.1%)と、全国に比べて低いという課題があります。

【学校生活】

◇「学校に行くのは楽しい」と回答した割合は82.4%(82.1%)と高く、全国とほぼ同程度で良好な状況にあると考えています。

【規範意識】

◇「学校の規則を守っている」「いじめは、どんなことがあってもしてはいけない」「人の役に立つ人になりたい」と回答した割合は、それぞれ93.6%(94.4%)、93.0%(93.7%)、90.2%(93.7%)と、全国とほぼ同程度で良好な状況にあると考えています。

◆「人の気持ちがわかる人になりたい」と回答した割合は89.4%(94.9%)と、全国に比べて低いという課題があります。

【自尊感情】

◇「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した割合は92.3%(94.2%)と、全国とほぼ同程度で良好な状況にあると考えています。

◆「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」と解答した割合が、それぞれ69.7%(68.1%)、71.8%(71.7%)と、7割程度にとどまっているという課題があります。

3 次年度に向けた取組目標

道徳教育や人権尊重教育、キャリア・在り方生き方教育等の一層の充実を図り、「自分のよさを認識できる生徒」「将来の夢や目標をもつ生徒」の割合が、今年度より5ポイント程度向上することをめざします。

教育委員会から

高津中学校は、敬愛、忍耐、向学、健康を学校教育目標に掲げ、授業と学習評価の充実、人権尊重教育の充実といじめのない学校づくりに取り組んでいます。授業中の様子では、大変落ち着いた中、自分の考えを積極的に発表しようとする意欲的な姿を拝見しました。改善点を常に模索し、授業改善につなげようとする先生方の姿勢が、生徒の学力の上昇につながるものと期待します。

高津区・教育担当